

豊橋技術科学大学長 殿

平成 7 年 8 月 29 日

審査委員長

三宅 隆



論文審査及び最終試験の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。

記

学位申請者	茅 国平	学籍番号	第 927951 号
申請学位	博士(工学)	専攻名	システム情報工学
論文題目	情報産業と経済発展 - 上海市と日本の比較研究(1952-1991) -		
公開審査会の日	平成 7 年 8 月 25 日		
論文審査の期間	平成 7 年 7 月 26日~平成 7 年 8 月 25日	論文審査の結果	合格
最終試験の日	平成 7 年 8 月 25 日	最終試験の結果	合格

論文内容の要旨

本論文は、統計学、計量経済学的手法により情報経済計量モデルを構築し、シミュレーションにより中国上海市と日本の情報経済の比較分析を行い、情報産業が経済発展に与える影響を明らかにした。第1章では、本研究の目的、背景を述べた。第2章では、情報産業の分類、経済発展の概念を説明した。第3章では、上海市情報産業の発展及び情報経済を測定した結果を述べた。第4章では、情報産業を中心とした産業連関分析により、上海市の情報産業と日本の情報産業との構造格差、生産機能格差を系統的に明らかにした。第5章では、情報発展を因子として労働生産性関数に導入し、上海市と日本において情報産業が労働生産性に与える影響を解明した。第6章では、情報発展を因子として労働投入関数に導入し、上海市と日本において情報産業が労働構造に与える影響を解明した。同時に、中国計画経済体制下の政府の労働就業政策因子および日本市場経済体制下の経営主体の労働投入に関する意思決定力因子を抽出し、上海市と日本の隠蔽失業を数量的に測定した。第7章では、情報発展を因子として国民福祉関数に導入し、上海市と日本において情報産業が国民福祉に与える影響を解明した。第8章では、経済発展モデルを構築し、情報発展が社会経済発展に与える影響を数量的に示すことにより、上海市と日本の情報格差を解明した。第9章では本研究の結論を述べ、第10章では補論として上海市への政策提言を行っている。

審査結果の要旨

発展途上国における情報経済発展についての研究は従来あまりなされていない。本研究は、発展途上の上海市と経済先進国の日本を例として、情報産業はどのように現代経済社会において機能しているのか、また、情報産業は今後どのように経済発展に寄与するのか、これらの課題を理論的、実証的に解明した点で学術上意義深い。

本研究により、(1) 情報因子を明示的に考慮し、生産性関数、労働投入関数、国民福祉関数を設計したこと、(2) 情報因子を考慮した経済発展モデルを開発したこと、および(3) 政策因子を導入して隠蔽失業を産業別に、それも情報産業の影響力も考慮した形で、数量的な測定に成功したことは情報経済研究の分野における画期的な成果といえる。また、上海市と日本の比較による情報経済構造の地域格差を解明したことは、地域経済学の分野において有意義な結果を与えた。

本研究により得られた、情報因子を導入して設計した生産性関数、労働投入関数、国民福祉関数、及び経済発展モデルは一般性、実用性があり、他地域の情報経済及びその影響の分析、解明に適用することができるものと考えられ、応用性と発展性の意味からも高く評価できる。以上により、本論文は、情報経済分析を通じて定量的な社会、経済システムの計画、設計を行うのに資する点で工学的な貢献が大きい。よって、本論文は博士(工学)の学位論文に相当するものと判定した。

審査委員

三宅 隆
水鉦 揚四郎



印

有藤 制海
増山 繁



印

廣 畠 康 裕



印

(注) 論文審査の結果及び最終試験の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。